

I. 山形大学独自の取組

① 第2次男女共同参画基本計画に基づく行動計画と推進組織

①-1 | 目的・基本方針・令和2年度具体的施策(行動計画)

●第2次男女共同参画基本計画の施行について

山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画（実施期間は令和元年度まで）により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきた。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきた。平成30年度は、男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果と課題を明らかにするために、「男女共同参画に係るアンケート調査」を実施した。そして、令和元年度に、男女共同参画推進委員会内にワーキンググループ（座長は河野銀子委員）を設置し、ワーキンググループ会議を3回開催して基本計画（案）を作成し、2回の男女共同参画委員会における検討を経て、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）が策定され、令和2年4月1日に施行されることになった。

第2次基本計画は令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策が定められた。第2次基本計画には、これまでの10年間の成果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、基本方針及び具体的施策が掲げられている。女性教員比率や女性管理職比率についてはこれまで以上に高い目標を設定し、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記された。なお、第2次基本計画の策定に伴い男女共同参画推進に関する規定が改訂され、男女共同参画推進委員は各キャンパスから選出されることになった。

●目的

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画社会実現のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画推進宣言」（平成21年1月23日）を発表した。男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、本学の学生及び教職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくため、ここに山形大学男女共同参画基本計画（第2次）（以下「基本計画」という）を定める。

●基本方針

目的の達成に向けて、本学の基本方針を次のとおり定める。

1. 教職員（教員及び職員）等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 男女共同参画及びダイバーシティに関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備
4. 男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革の促進
5. 女性研究者（教員・後期博士課程学生・ポストドクター）の裾野拡大
6. 男女共同参画及びダイバーシティ推進のための教育・研究の充実
7. 男女共同参画及びダイバーシティに関する学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 男女共同参画及びダイバーシティに取り組む地域社会等との連携

●令和2年度具体的施策（行動計画）

【教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正】

<全学>

- 1) 女性教員比率の向上
 - ・雇用機会均等法によると女性の割合が4割を下回っている場合、男女格差が存在していると判断される。本学においても女性教員比率を引き上げるとともに、格差の是正に努める。
 - ・令和11年度までに、大学全体の教授の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
 - ・上記の目標を達成するため、必要な改善措置等を男女共同参画推進室を中心に各キャンパス等においても具体的に検討し、その達成状況を毎年点検する。
- 2) 大学経営における女性参画の拡大
 - ・令和11年度までに、役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
 - ・女性教職員の人材育成のため積極的な方策を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。
- 3) 男女格差是正のためのチェック機能の導入
 - ・教職員の採用や昇進、研修機会において、積極的な改善策がとられているか、また、業績評価において、性別による差別等がないか、無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを定期的に点検する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・研究環境の整備に努め、助成等の支援体制についても、積極的に周知していく。 ・女性教員の活躍状況や男女雇用機会均等法等の取組状況を、公募やHP等へ掲載する。 ・各種運営業務や管理的業務へ女性教員の登用を、男女比率も配慮しながら継続する。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の比率20%以上を維持する。 ・24時間保育所及び病児保育室の円滑な運営を通して、女性が働き続けられる環境の整備を行う。 ・性別による優遇措置はとらないが、管理職として適切な人材を登用することにより、積極的に女性教員の活用を図っていく。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長記者懇談会において、女性教員による研究発信コーナーを設け、各月の記者懇談会で研究成果の発表を行うことで、活躍ぶりを広く社会にPRする。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・研究分野を考慮しながら、女性教員比率を引き上げるための採用計画を実施する。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県教育委員会と連携し、校長・教頭への女性教員の登用を積極的に推進する。 ・主幹教諭や教務主任、学年主任、主事等への女性教員の登用割合を維持又はそれ以上となるように努める。

【男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革の推進】

<全学>

- ・個々の性別、性的指向・性自認にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す。
- ・教職員や学生を対象とするシンポジウムやセミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的で開催する。
- ・女性研究者ネットワークを構築し、定期的な勉強会等を開催する。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的で開催する。
- ・ホームページ、男女共同参画ニューズレター等による学内外への情報発信を強化する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスで主催の関連する研修会等への参加及び支援を行い、意識を高める。 ・男女共同参画に関するHPや広報誌などを活用し、正確な情報を提供するとともに育休取得など、積極的に支援を行う。 ・会議等へのリモート参加など、積極的な意識改革を推進する。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生を対象にしたキャリアパスセミナーにおいて、男女共同参画に関する内容を更に充実させる。 ・山形県、山形県医師会、女性医師ネットワークと緊密な連携をとり、男女共に参加できる男女共同参画の企画を進める。 ・総合医学教育センター、高度医療人研修センターが中心となって女性医師・看護師が切れ目なく働き続けられるよう援助する。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点に基づいた、ハラスメント防止研修会を実施する。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員においては、男女共同参画推進室の企画事業への参加を積極的に促す。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・各校園長等が、校内研修会等において、オンライン教材（動画等）や資料等を用い教職員に対し講義等を行い、LGBT等に対する情報を周知することで、LGBT等に対する理解を深める。また、大学において制定されたLGBT等対応ガイドラインの周知に努める。

【男女共同参画及びダイバーシティ推進のための女性研究者の裾野拡大】

<全学>

- ・専門分野を活かした職業に就いている女性卒業生等を招いた講演会や交流会等を、各キャンパス等で定期的で開催する。
- ・女子中高生向けのセミナー等を開催する。
- ・女性学生の研究活動の活性化のためにネットワーク活動を支援する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の活躍を身近に感じてもらい研究職の魅力を伝え、職業選択の一つとして認識してもらえるよう、出張講義等への女性教員の参加の機会を積極的に支援する。 ・アカデミックキャンプなども活用し、女性研究者（卒業生を含む）の活動内容の広報に努める。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの事業をさらに充実させる。 ・24時間保育、病児保育など子育てと研究が両立する環境を生かし、多くの研究者等を受け入れる。 ・附属病院に勤務している職員の大学院進学の学費サポートを開始予定。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に教員採用予定の、「英語教育・異文化理解に関連した分野」及び「キャリア教育（留学生）分野」において、女性教員を優遇する公募を実施する。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等のイベントを利用して、女子高生向けの情報を提供し、活動していく。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・本学が採択された「女子中高生理系進路選択支援事業」を附属中学校において積極的に活用する。

【その他】

＜全学＞

- ・両立のための環境作り、意見・要望等をくみ上げるシステム、教育・研究の充実、男女別統計等の分析・情報提供、地域社会等との連携など

＜キャンパス＞

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・研究や教育、学部運營業務全般について、テレワーク等を実施し、問題点等を検討し、効率化を進める。・育児休業からの復帰のサポートなど、家庭との両立や各種研修時のサポートを行う。・懇談会や講演会などを企画し、意見・要望等、情報交換の機会を設ける。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・医学部管理運営委員会において検討し、関係する各事業を通じて推進していく。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・大学院改組に主眼をおいた進学説明会を実施し、女子学生の大学院進学率を向上させる。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・ワークライフバランスの課題の共有や育児休業や介護休業などの各種制度や取りやすい環境整備、ならびに、男女共同参画の取組に関する情報交換に努める。
附 属 学 校	なし

①-2 | 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事

令和2年4月1日現在

委員名	氏名	備考
第1号委員	小島浩孝	委員長
	飯塚博	副委員長
第2号委員	河野銀子	理事特別補佐
第3号委員	本多薫	小白川キャンパス
	齋藤貴史	飯田キャンパス
	野々村美宗	米沢キャンパス
	塩野義人	鶴岡キャンパス
第4号委員	藤岡久美子	令和2年4月1日～（再任）
	櫻田香	令和2年4月1日～（再任）
	宮 瑾	令和2年4月1日～
	網干貴子	平成31年4月1日～
第5号委員	伊藤雅彦	総務部長
第6号委員	高橋正敏	研究部長
第7号委員	富樫整	保健管理センター長

【参考】

第2次山形大学男女共同参画基本計画の施行に伴い、第3号委員・第4号委員が改正された。

- ① 第1号委員：学長が指名する理事
- ② 第2号委員：担当理事が指名する理事特別補佐
- ③ 第3号委員：各キャンパス長が当該キャンパス内の副学部長の中から推薦する者 各1人
- ④ 第4号委員：山形大学学術研究員規程第8条に基づく主担当教員として各キャンパス内に配置された女性教員の中から各キャンパス長が推薦する者 各1人
ただし、女性教員が困難な場合は、男性教員とすることができる。
- ⑤ 第5号委員：総務部長
- ⑥ 第6号委員：研究部長
- ⑦ 第7号委員：その他委員長が必要と認めた者

令和2年度第1回男女共同参画推進委員会議事（書面会議）

令和2年4月21日（火）

1 協議事項

- （1） 第2次山形大学男女共同参画基本計画について
 - ① 基本計画策定の経過、基本方針、具体的施策
 - ② 令和2年度の年度計画（全体計画）
 - ③ 全学の取組の重点
- （2） 各キャンパスの年度計画について
 - ① 「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び課題（各部局）
 - ② 令和2年度各キャンパスの年度計画の作成
- （3） 令和2年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② ダイバーシティ事業の規程・要領の継続・改廃
- （4） その他

2 報告事項

- （1） 山形大学男女共同参画推進に関する規程・米沢分室規程
- （2） 令和2年度室員・委員・スタッフ
- （3） 令和元年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
- （4） 令和2年度「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師について
- （5） 山形大学女性大学院生ネットワーク（山大JOIN）と次世代育成事業について
- （6） 教員公募要項に係る追記事項について（通知）

令和2年度第2回男女共同参画推進委員会議事（書面会議）

令和2年11月13日（金）

1 協議事項

1 男女共同参画推進室関係の時限到来に伴う規則の見直し（案）

- （1） 男女共同参画推進室関係の規程の一部改正について
 - ① 山形大学男女共同参画推進に関する規程の一部改正（案）
 - ② 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程の一部改正（案）
 - ③ 山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程の廃止

- ④ ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程の廃止
- (2) 要領の改正

2 多様な性に関するガイドライン（案）の作成について

令和2年度第3回男女共同参画推進委員会議事

令和3年1月26日（火）

I 協議事項

- 1 山形大学における多様な性に関するガイドライン（案）の策定について
- 2 その他

II 報告事項

- 1 支援制度の見直しについて
- 2 その他

①-3 | 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事

令和2年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
室 長	小 島 浩 孝	理事（総務担当）
副 室 長	飯 塚 博	理事（研究担当）
理 事 特 別 補 佐	河 野 銀 子	教授（地域教育文化学部担当）
主 担 当 教 員 (チーフ・コーディネーター)	井 上 榮 子	准教授 (男女共同参画推進室担当)
室 員	伊 藤 雅 彦	総務部長
室 員	菅 井 和 明	総務部労務課長
室 員	柏 倉 弘 喜	研究部研究支援課副課長
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第1回男女共同参画推進室ミーティング議事

令和2年4月14日（火）15:00～15:45

法人本部役員会議室（3階）

1 協議事項

- (1) 第2次山形大学男女共同参画基本計画について
 - ① 基本計画策定の経過、基本方針、具体的施策
 - ② 令和2年度の年度計画（全体計画）
 - ③ 全学の取組の重点
- (2) 各キャンパスの年度計画について
 - ① 「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び課題（各部局）
 - ② 令和2年度各キャンパスの年度計画の作成
- (3) 令和2年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画 ② 男女共同参画セミナー
 - ③ ダイバーシティ事業の規程・要領の継続・改廃

2 報告事項

- (1) 山形大学男女共同参画推進に関する規程・米沢分室規程
- (2) 令和2年度室員・委員・スタッフ
- (3) 令和元年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
- (4) 令和2年度「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師について
- (5) 山形大学女性大学院生ネットワーク（山大JOIN）と次世代育成事業について
- (6) 教員公募要項に係る追記事項について（通知）

①-4 | 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事

令和2年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
分 室 長	小 島 浩 孝	理事(総務担当)
副 分 室 長	中 島 健 介	工学部長
主担当教員(チーフ・コーディネーター)	井 上 榮 子	准教授(男女共同参画推進室担当)
副 担 当 教 員	野々村 美 宗	工学部副学部長
副 担 当 教 員	宮 瑾	准教授(大学院理工学研究科)
副 担 当 教 員	皆 川 真 規	助教(大学院理工学研究科)
室 員	金 生 周 篤	米沢キャンパス事務部長
室 員	阿 部 賢 二	米沢キャンパス総務課長
室 員	前 田 美 香	男女共同参画推進室研究支援者
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第9回男女共同参画推進室米沢分室会議議事

令和2年7月3日(金) 14:30~15:30

法人本部第二会議室(4階) TV会議

I 報告事項

1 令和2年度男女共同参画推進委員会

- (1) 令和2年度分室体制
- (2) 山形大学男女共同参画基本計画(第2次)
- (3) 全学の取組の重点
- (4) 各キャンパスの年度計画
- (5) 女子中高生理系進路選択支援事業
- (6) 教員公募要項に係る追記事項

2 令和元年度ダイバーシティ事業

3 山形大学COIとの連携

4 その他

II 協議事項

1 最終年度のダイバーシティ事業について

- (1) JST事業結果説明書及び事業計画書
- (2) 令和2年度年間計画
- (3) 目標の達成と継続性について

2 ダイバーシティ事業規程・要領の改廃(分室の在り方)

3 その他

①-5 「多様な性に関するガイドライン」の策定

1 経緯

令和2年4月に第2次山形大学男女共同参画基本計画が施行され、第1回男女共同参画推進委員会（書面審議）で、年度計画や具体的施策が承認された。その具体的施策の一つとして、「基本計画の具体的施策4」に性的指向・性自認等にかかわらずに活躍できる大学を目指すことが掲げられているため、「LGBT対応ガイドライン」策定のためのワーキンググループを設置し、ガイドラインを策定することが決定した。

まず、6月19日に、推進室長が、教職員6名（学内有識者や担当職員など）と学生3名にワーキンググループ委員を委嘱（座長は中澤未美子 准教授）した。そして、他大学の参考例や9月に実施した全教職員・学生アンケートなどを踏まえて、ワーキンググループ会議を5回開催してガイドライン（案）を作成し、第2回及び第3回男女共同参画推進委員会における検討を経て、ガイドラインの策定を行った。ガイドラインの名称については、「山形大学における多様な性に関するガイドライン」とすることが決定した。

なお、文部科学省が平成28年4月に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応などの実施について（教職員向け）」を公表し、令和2年6月のパワハラ防止法（改正労働施策総合推進法）では性的指向・性自認等を理由とするハラスメント防止が義務付けられたこと等も考慮した。

2 策定の経過

令和2年

- 7月29日 第1回WG会議（書面会議）〈方針〉
- 8月26日 第2回WG会議（Zoom会議）〈原案作成〉
- 9月3日
～23日 全教職員・学生、Googleフォームによるアンケート
回答数369、「LGBTという言葉聞いたことがある」90.2%
「ガイドラインの作成はいいことだ」84.8%、その他自由記述など
- 10月2日 第3回WG会議（Zoom会議）〈原案作成〉
- 11月6日 第4回WG会議（書面会議）〈原案修正〉
- 11月25日 第2回男女共同参画推進委員会（書面会議）〈検討〉
- 12月15日 第5回WG会議（Zoom会議）〈原案修正〉

令和3年

- 1月18日 役員朝の会
- 1月26日 第3回男女共同参画推進委員会（TV会議）〈策定〉
- 2月10日 教育研究評議会
- 2月17日 役員会
- 3月15日 経営協議会

3 ガイドラインの内容

<はじめに>

I 「多様な性」を尊重する大学であるために

- (1) 基本的な用語 (2) カミングアウトとアウトティング (3) ハラスメントの防止

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

- (1) 啓発・研修 (2) 氏名・性別情報 (3) 授業 (4) 健康診断 (5) 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等 (6) 留学の対応 (7) 施設 (8) 相談窓口

III 学生、教職員、附属学校への対応

<おわりに> <巻末資料>

- ・誰でも使用することが可能なトイレ・学内の相談窓口一覧

山形大学における多様な性に関するガイドライン

<はじめに>

山形大学では、第2次山形大学男女共同参画基本計画（令和2年4月施行）において、男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、「個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す」ことを掲げており、様々な取組を行っています。

このガイドラインは、「多様な性」について、本学の姿勢、現段階での具体的対応、これから対応する必要がある事柄などを示したものです。

このようなガイドラインがあってもなお、多様な性が尊重されていないと感じる場面や、深く悩んでしまうような出来事が起こってしまうかもしれません。その際は、ガイドライン中に示してある相談窓口まで、相談してください。教職員一丸となってサポートしていきます。

令和3年2月 山形大学長

I 「多様な性」を尊重する大学であるために

本ガイドラインにおける「多様な性」とは、性的指向や性自認等の様々なあり方を包摂するものです。以下で、「多様な性」についての基本的な用語などについて説明します。

(1) 基本的な用語

性的指向 (Sexual Orientation)：どのような性別に魅力を感じるかという方向性のこと（感じないという場合を含む）。

性自認 (Gender Identity)：自身の性別についての持続的な自己意識（アイデンティティ）のこと。

※これらの頭文字をとってSOGI（ソジ）と呼ぶことがあります。いわゆる性的マイノリティに限らず、あらゆる人が何らかのSOGIのあり方をしています。

性別表現（gender expression）：「女性らしさ」や「男性らしさ」等の自身の性別に関わる表現のこと。服装、髪型、仕草、言葉使い等に表れます。ある人の性別表現のあり方は、性的指向や性自認のあり方と一対一で対応している訳ではありません。例えば、男性としての性自認をもつ人の性別表現が男性的であるとは限りません。

レズビアン（Lesbian）：性自認が女性で、性的指向が女性に向く人。

ゲイ（Gay）：性自認が男性で、性的指向が男性に向く人。

バイセクシュアル（Bisexual）：異性にも同性にも性的に魅力を感じる可能性がある人。

トランスジェンダー（Transgender）：出生時に登録された性別とは異なる性を生きている（生きようとする）人。

※この4つの頭文字を並べて連帯を表現したのがLGBTという言葉です。性的マイノリティにはLGBT以外にも様々なあり方があります。最近はLGBTQ、LGBT+などの表現も使われることがあります。

アセクシュアル（Asexual）：他者に性的な魅力を感じるということがない人。恋愛感情の有無は人によって様々です。

パンセクシュアル（Pansexual）：あらゆる他者に対し、その性別等を顧慮することなく性的に魅力を感じる可能性がある人。

クィア（Queer）：規範的な性のあり方に対して、批判的であったり不服従であることを誇りをもって表す言葉。

クエスチョニング（Questioning）：性的指向や性自認を確定しないあり方。

異性愛（heterosexual）：性的指向が異性に向く人。

シスジェンダー（cisgender）：出生時に登録された性別に違和を感じることなく生きている人。（トランスジェンダーの対義語）

※「異性愛かつシスジェンダー」の人は、この言葉を日頃意識する必要すらないかもしれません。社会はそのような人を暗黙の前提としてきたからです。

なお、人の性のあり方は、必ずしも特定のカテゴリーに明確に分類できるものではありません。性のあり方はスペクトラムとして存在しているともいえます。

（2）カミングアウトとアウティング

自身の性的指向や性自認について、自らの意思に基づき他者に伝えることをカミングアウトといいます。これに対して、ある人の性的指向や性自認について本人の同意なく第三者に暴露することをアウティングといいます。

カミングアウトは、その人が必要性を感じた場合に、信頼できる相手に対して行うものです。必要な人が支障なくカミングアウトできる環境、そして不要なカミングアウトを迫られることのない環境を作っていくためには、学生及び教職員が「多様な性」について認識し、理解を深めていくことが大切です。

カミングアウトをするかどうか等について悩みがある場合は、相談窓口にご相談ください。カミングアウトを受けた場合は、自身に対する信頼感の現れと捉え、伝えてくれたことをしっかりと受容することが重要です。カミングアウトを受けてとまどうことがあった場合は、相談機関で気持ちを整理することもできます。

アウトィングは、たとえ善意からであったとしても、本人に大きな被害を及ぼすものです。絶対に許されない行為であることを銘記する必要があります。カミングアウトの内容が大学としての対応を必要とするものであったときは、誰とどの範囲で情報を共有するかについて本人の確認を得ながら、対応を進めていきます。

(3) ハラスメントの防止

アウトィングだけでなく、性的指向や性自認に関する偏見に基づく言動や侮蔑的言動は、ハラスメントに該当します。令和2年6月に施行されたパワハラ防止法(改正労働施策総合推進法)では、性的指向・性自認等を理由とする差別やアウトィングを含めて、ハラスメントの防止対策を講ずることが義務付けられています。「多様な性」の観点からも、ハラスメントのない就労・就学環境を維持していく必要があります。

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

以下では、多様な性に関して、本学の姿勢と現段階での具体的対応を項目ごとに記載します。

1 啓発・研修について

「多様な性」を尊重する大学をめざし、理解を促進し、ハラスメントを未然に防止するため、次のような啓発・研修を実施します。

- ・教職員対象のFD研修・SD研修、相談窓口の対応に関する相談員研修など
- ・学生対象の入学時・進級時のガイダンスなど
- ・男女共同参画フェスタにおけるポスター展示やリーフレット配布など

2 氏名・性別情報について

(1) 通称名の使用と性別の変更

本人の申し出により、自認する性に基づく通称名を使用することができます。

本学における学生の氏名は、学籍簿上の表記に基づいて取り扱い、学籍簿上の表記は戸籍上氏名を原則としています。戸籍上の性別変更に伴う場合は、学籍簿上の性別情報の変更が可能です。

(2) 性別情報

性別情報については、当事者の意図しない形で公表されることのないよう、慎重に取り扱います。特に学生に配付・掲示する名簿については、性別欄を除外して配付・掲示するよう、全学的に周知・徹底を図ります。教員の会議等においても、性別情報を含む個人情報については、慎重に取り扱うべき個人情報として管理します。

(3) 大学が発行する証明書等の性別記載

証明書自動発行機から学生が即時発行できる証明書等のうち、在学証明書、卒業・修了（見込）証明書、健康診断書、通学証明書には性別記載がありませんが、成績証明書などには性別記載があります。今後、各証明書等で性別の記載が不必要なものについては、記載しないことになっていきます。

(4) 大学に提出する諸書類における性別情報の記入

本学に提出する諸書類のうち、入学料免除徴収猶予申請書、授業料免除申請書などには性別記載がありませんが、入寮願書、派遣留学申込書などには性別記載があります。今後、提出書類に性別情報の記載が本当に必要かどうかを精査していきます。

3 授業について

性的指向・性自認等にかかわらず、すべての学生が学びやすい授業をめざして、次のような授業づくりに努めます。

- ・学生に対する呼称等（Ms.、Mr.、くん、さん等）については、性別に関わらず使用できる呼称（例えば、Yamadai-san、山大さん等）の使用を進めます。
- ・性別でのグループ分けの必要性について確認します。
- ・授業等で使用するワークシートやアンケートに性別欄を設ける際には、配布時にその目的を説明し、性別欄の記入を自由に選択できるようにします。

4 健康診断について

健康診断の受け方について希望がある場合は、個別の対応を行います。

5 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等について

キャリアサポートセンター、学生相談室、総合対策室等、学内の関係部署が、必要に応じて連携し、就職活動やインターンシップなどに関する相談に対応します。

6 留学の対応について

国際交流室で、留学先の生活環境や学習支援体制など、受け入れ先の環境に不安がある場合には対応します。

7 施設について

男女のトイレとは別に、性別等にかかわらず、多目的に利用できる「だれでもトイレ」を設置し

ています。（巻末参照）

学内の更衣室は男女別ですが、個別の対応を工夫します。寮も男女別ですが、シャワー・トイレ付きのユニットバスが備えられている個室もありますので、事前に問い合わせてください。

8 相談窓口について

多様な性に関する学内の相談窓口は、各キャンパス・附属学校に設置しています。（巻末参照）

各窓口は、所属キャンパスに関係なく、相談することができます。相談に対応する専門職には秘密保持の義務があり、匿名で相談することや、自分自身に関すること以外の相談も可能です。保護者からの相談も受け付けています。学内の相談窓口の利用に抵抗がある場合は、学外の支援団体でも相談を受けることができます。

III 学生、教職員、附属学校への対応

以下では、多様な性と関係が深い事柄を、学生、教職員、附属学校に分けて記載します。取り組みが十分でないことについては、今後、整えていく予定です。

学生の皆さんへ

1 通称名の使用・性別情報について

本人の申し出により、自認する性に基づく通称名を使用することができます。通称名の使用に伴い、学生証、CampusSquare、授業の受講者名簿等が通称名で表示されることになります。

また、本学に提出する諸書類については、性別記載欄を未記入のまま提出することが可能な場合もあります。入学前でも差し支えありませんので、相談窓口に申し出てください。

2 授業について

授業の履修に困難を感じる場合は、担当教員や相談窓口にご相談してください。男女別に授業が行われることもある実技科目等については、担当教員が面談のうえ個別対応します。

3 健康診断

健康診断の受け方について希望があるときは、相談窓口にご連絡すれば個別対応が可能です。

4 クラブ活動、学外活動、就職活動について

学生の希望や相談を踏まえ、関係部署と連携して対応を工夫します。

5 学生サークルについて

以下のサークルが有志の大学教職員と繋がりを持って活動しています。

・カラフルCAFÉ

男女共同参画推進室HPを参照 <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

6 施設について

多目的に利用できる「だれでもトイレ」については、巻末資料のとおりです。

7 相談について

学生生活などに関する相談窓口は、巻末資料のとおりです。

教職員の皆さんへ

1 通称名の使用・性別情報について

多様な性に関連して、希望する通称名や性別を用いて働きたいという教職員の方は、相談窓口にご相談ください。性別情報を含む個人情報については、慎重に取り扱うべき個人情報として管理されます。

2 健康診断について

健康診断の受け方について希望があるときは、巻末資料を参照してください。

3 相談について

多様な性に関連して学内で対応してほしいことがあれば、巻末資料の総務部労務課、または相談窓口一覧表から相談しやすいところにお申し出ください。

各種法律や文部科学省共済組合の制度が関連することについては、本学の努力のみで対応することが困難な場合がありますが、誰もが働きやすいキャンパスを目指すために、教職員の希望を把握したいと考えています。

附属学校の皆さんへ

文部科学省は、平成28年4月に、「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応などの実施について（教職員向け）」を公表し、教職員の理解を促進する方針を示しました。また、平成29年に「いじめ防止等のための基本的な方針」が改正され、性的指向・性自認等を理由とするいじめの防止が求められています。

附属学校においては、「山形大学における多様な性に関するガイドライン」及び「山形市職員・学校教職員のためのLGBT対応サポートハンドブック」（平成31年3月山形市作成）に基づいて、多様

な性に関して次のとおり対応します。

1 差別解消について

- (1) 全ての児童生徒に対して、互いの個性を認め合い、命や人権を尊重する態度を養います。
- (2) 全ての職員が、性的指向や性自認に基づく差別・いじめを許さない姿勢をもちます。
- (3) 児童生徒や保護者が抱える困り感や悩み、ニーズを十分に受けとめます。
- (4) 教職員間で情報を共有することについて、児童生徒や保護者から理解を得ます。

2 具体的な対応について

(1) 施設利用・学校生活について

① トイレや更衣室

本人の意向を尊重しながら、教職員用トイレや学校内の多目的トイレを使用するなど、一元的な対応にならないように工夫します。多目的に利用できる「だれでもトイレ」については、巻末資料のとおりです。

② 健康診断や宿泊行事

本人や保護者の意向を踏まえた上で個別に実施するなどの工夫をし、宿泊行事については、部屋割りや入浴時間を配慮するなどの工夫をします。

③ 制服等について

制服や体育着、水着など、男女で異なる場合は、本人（及び本人の了解の上で保護者）の申し出によって、希望する衣服等の着用について検討します。

(2) 課外活動等について

① 部活動、使用物品について

部活動への参加は、本人や保護者のニーズを十分に把握して対応を検討します。また、使用物品が性別による違いがある場合には、本人及び保護者と相談の上、配慮を検討します。

② 校外の活動先での連携について

校外の活動先では、児童生徒への対応に不慣れな人が関わる可能性があるため、活動先の指導者などと共通理解に努めます。ただし、安全配慮などの必要から、当該個人を特定して先方に伝えざるを得ない場合は、事前に本人（及び本人了解の上で保護者）に了解を得ます。

(3) 事務・手続き等について

① 卒業証明書の発行について

指導要録の記載については、学齢簿の記載に基づき行います。卒業後に戸籍上の性別の変更を行った者から卒業証明書の発行を求められた場合には、戸籍を確認した上で当該者が不利益を被らないように配慮します。

② 通称名の使用について

通称名の使用を希望する場合は、本人（及び保護者）との話し合いのもと、学校での書

類全般に本名とは異なる通称名をあらかじめ定めて、その使用を認めることを検討します。

3 組織対応について

- (1) 配慮が必要な児童生徒について、教職員が共通理解し、学校全体で支援を行います。
- (2) 児童生徒や保護者が悩みや心配を相談しやすい環境を整備します。
- (3) 相談があった場合は、可能な範囲で希望に寄り添えるように対応を工夫します。

4 相談窓口

附属学校の本人・保護者などからの相談窓口は、巻末資料のとおりです。

<おわりに>

上記で示したことは、現時点での状況です。今回のガイドラインは、学生と教職員が、ガイドラインの意義や位置づけなどを様々に議論して作成したのですが、多様な性を尊重する高等教育機関の在り方とはどのようなものかについて、これからも学生・教職員と対話しながら改訂の努力を継続します。

令和3年2月 山形大学男女共同参画推進委員会

巻末資料 【誰でも使用することが可能なトイレ】

小白川キャンパス		米沢キャンパス	
本部事務棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	百周年記念会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部1号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様・子供連れ配慮）	工学部図書館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部2,3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部2号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部先端科学実験棟（4F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部3号館東（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
インフォメーションセンター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部4号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様・おむつ換えシート有）
		工学部5号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
人文学部1,3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部7号館東（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
		工学部7号館西（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
小白川図書館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部9号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
保健管理センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部10号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
学生会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部11号館（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）
瑞樹荘（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	GM成形加工研究センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
体育館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	インキュベーション施設棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
基盤教育1～3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	地域共同研究センター棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
地域教育文化学部音楽校舎（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		

飯田キャンパス		鶴岡キャンパス		
附属病院（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）4箇所	農学部1号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）14箇所	農学部2号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院（3F）	多目的トイレ（車いす仕様）2箇所	農学部3号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院病棟（4～10F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階2箇所	附属学校		
基礎校舎（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属幼稚園遊戯室脇	多目的トイレ
学生実習講義棟（1～4F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階1箇所		附属小学校管理棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
臨床研究棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）2箇所		附属小学校体育館	多目的トイレ（車いす仕様）
臨床研究棟（2～6F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階1箇所		附属中学校昇降口（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
遺伝子実験センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属特別支援学校北（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
医学交流会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属特別支援学校北（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）
医学部会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）			
がん研究センター（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）			

【多様な性に関する学内の相談窓口一覧】（電話は平日の9時～17時）

所在地	名称	連絡先
小白川キャンパス	男女共同参画推進室	023-628-4937 y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
	保健管理センター 小白川学生相談室	023-628-4154 nsroom@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
	総務部労務課	023-628-4022 sjhosaro@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
米沢キャンパス	工学部保健管理室 学生相談室	0238-26-3034 sodan@yz.yamagata-u.ac.jp
飯田キャンパス	医学部保健管理室	023-628-5981 ihoken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
鶴岡キャンパス	農学部保健室	0235-28-2817 nouhoken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

所在地	名称	連絡先
附属学校	附属幼稚園保健室	023-641-4446 cocoro.karada@fuyo.yamagata-u.ac.jp
	附属小学校保健室	023-641-4444 cocoro.karada@fusho.yamagata-u.ac.jp
	附属中学校保健室	023-641-4440 cocoro.karada@fuchu.yamagata-u.ac.jp
	附属特別支援学校保健室	023-631-0918 cocoro.karada@med.id.yamagata-u.ac.jp

①-6 | 男女共同参画推進室活動記録

- 4月1日 山形大学男女共同参画基本計画（第2次）施行、パンフレット・リーフレットの配布
- 4月14日 男女共同参画推進室ミーティングの開催
- 4月20日 男女共同参画推進室テレワーク開始（新型コロナウイルス感染症防止対策のため）男女共同参画セミナー及び男女共同参画フェスタ開催中止
- 4月22日 第1回男女共同参画推進委員会（書面会議）の開催（5月22日承認）
- 5月7日 令和2年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択決定
山形大学「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプロジェクト」
- 6月22日 第1回ダイバーシティ連携推進会議（Zoom）の開催
- 7月1日 山形市による認可外保育施設設置状況の立入調査
- 7月3日 全国ダイバーシティネットワーク組織第3回幹事会（Zoom）の開催
男女共同参画推進室米沢分室会議（第9回）の開催（TV会議）
- 7月17日 大学院生のためのキャリア・就職活動セミナー（フレックス大学院主催）開催（Zoom）
- 7月22日 米沢分室の移転（工学部管理棟1階へ）
- 7月29日 LGBT対応ガイドライン第1回WG会議（書面会議）の開催
- 7月30日 第3回地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくりPart2」の開催
- 7月31日 国立大学協会「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査（第17回）」の回答
山形大学男女共同参画推進室ニューズレター（第27号）の発行
- 8月2日 農学部女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ？～現役理系学生の話聞いてみよう～」の開催
- 8月4日 令和2年度「大学コンソーシアムやまがた」定期総会の開催（遊学館）
- 8月7日 小白川キャンパス保育所運営委員会の開催
- 8月26日 LGBT対応ガイドライン第2回WG会議（Zoom）の開催
「大学コンソーシアムやまがた」第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議の開催（遊学館）
- 9月3日 山形大学「多様な性に関するガイドライン」（仮称）に関するアンケート（Web）実施（9月23日まで）
- 9月8日 古川英光氏（理工学研究科・教授）を講師に外部資金獲得セミナー（米沢栄養大学担当）を研究支援課と共同開催（Zoom）
- 10月2日 LGBT対応ガイドライン第3回WG会議（Zoom）の開催
- 10月4日 「女子中高生のためのサイエンス・カフェ～親子で女性の研究者と話してみよう！～」開催（遊学館）講師：河合寿子氏（理学部・助教）
- 10月9日 後藤薫氏（医学部医学研究科・教授）による「英語論文の書き方セミナー～英語論文で世界に問う～」の開催
- 10月19日 山形大学「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプロジェクト」長井市立長井北中学校出前講座
- 11月2日 LGBT対応ガイドライン第4回WG会議（書面会議）の開催

- 11月4日 小白川キャンパス主催「男女共同参画推進研修会」開催 (Zoom) 講師：浅野衣子氏
- 11月10日 3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」及び「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」の開催
- 11月13日 第2回男女共同参画推進委員会(書面会議)の開催(11月25日承認)
- 11月24日 山形大学キャンパスハラスメント防止委員会・男女共同参画推進室共催によるハラスメント防止セミナーの開催(米沢キャンパス未来ホール・オンライン)企画・コーディネーター：中澤未美子准教授
- 11月27日 「博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー」をフレックス大学院と共催で開催 (Zoom)
- 12月1日 理学部女性研究者裾野拡大セミナー「理学部で何ができるのか?～女子高校生のための山大理学部案内～(高校1年生向け)」「理学部の研究室を覗いてみよう!(高校2年生向け)」の開催
- 12月4日 鶴岡キャンパス「学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会 in 農学部」の開催
- 12月11日 男女共同参画推進室の移転(法人本部棟1階へ)
- 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク認定証交付式 (Zoom) の開催
- 12月15日 LGBT対応ガイドライン第5回WG会議 (Zoom) の開催
- 12月23日 小白川キャンパスFD研修会「学長・学部長と教職員等とのワークライフバランス研修会」の開催 (Zoom) 講演者：村木厚子氏(元厚生労働省事務次官)
- 1月16日 大学共通学力テストにおける乳幼児の一時預かり実施(保育所「のびのび」開所)
- 1月17日 大学共通学力テストにおける乳幼児の一時預かり実施(保育所「のびのび」開所)
- 1月19日 男女共同参画推進室ホームページのリニューアル
- 1月26日 第3回男女共同参画推進委員会の開催(多様な性に関するガイドライン策定)
- 1月27日 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)令和2年度科学技術振興機構(JST)オンラインによる訪問調査
令和3年度以降の支援制度の見直し決定
各キャンパスに通知
- 2月4日 小白川キャンパス保育所「つぼみ」企業主導型保育事業指導・監査(立入調査)の実施(新型コロナウイルス感染症の拡大により延期)
- 2月19日 小白川キャンパス保育所「つぼみ」企業主導型保育事業指導・監査(オフサイト調査)の実施
- 3月12日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター(第28号)の発行
- 3月30日 令和2年度男女共同参画推進室報告書の発行

② 活動報告

②-1 | 意識改革

(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会

山形大学では、ワーク・ライフ・バランスについて、教職員等から意見を聴き、その実現に向けて様々な支援制度を検討し実施してきた。昨年度に引き続き、小白川キャンパスで研修会も開催された。令和2年度の懇談会の実施状況は、次のとおりである。

●ワーク・ライフ・バランス懇談会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
鶴岡 キャンパス (農学部担当)	働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス	12月4日(金) 13:15~14:15	教職員	19人
	ワークライフバランスの実現に向けて、教職員の誰もが働きやすく、研究者は研究しやすい環境づくりを行うことをめざし、日頃感じていること、要望等、率直な意見交換を行った。			
小白川 キャンパス (人文社会 学部担当)	ウィズコロナの時代のワークライフバランスを考える	12月23日(水) 14:40~16:10	教職員	118人
	元厚生労働省事務次官の村木厚子氏を講演者に迎え、Zoomによる講演会が開催された。ウィズコロナの時代におけるワークライフバランスの社会的意義とダイバーシティの積極的推進の方策などについて、講演いただいた後、学長・理事・参加者との意見交換が活発に行われた。			



図1 懇談会の様子(12月4日)



図2 懇談会の様子(12月23日)

●男女共同参画推進研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
小白川 キャンパス (理学部担当)	「自分の“働く”を語ることの大切さ」 ～“自分も他者も大切に働く”～を目指して	11月4日(水) 13:00～14:00	教職員	37人
	(株)キャリア開発サポートズ・浅野衣子氏から話題提供の後、ペアワークが行われ、自分を大切にする一歩として自分が何を大切にしているか、行動の意図や目的を探求し、この目的につながる夢や希望を言葉にする演習が行われた。Zoom参加者は機械的にペアが選ばれ演習を実施した。			



図3・4 研修会の様子 (11月4日)

●ハラスメント防止セミナー

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
米沢キャンパス (企画・コーディネート：中澤未 美子准教授)	ハラスメント防 止セミナー	11月24日(火) 13:00～14:50	教職員	80人
	エッセイストでタレントの小島慶子氏とNPO法人参画プラネット代表理事の渋谷典子氏を講師に迎え、オンラインによりハラスメント防止委員会・男女共同参画推進室の共催により開催された。今後、ハラスメントの防止に何が必要なのかを皆で考える貴重な機会となった。			



図5 ポスター

(2) 男女共同参画フェスタ (米沢分室含む)

例年6月に開催される内閣府の「男女共同参画週間」に合わせて、男女共同参画フェスタを開催している。令和2年6月22日に開催を予定していた男女共同参画セミナーやポスター展示(小白川・米沢)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としたが、山形大学男女共同参画推進室HPに内閣府男女共同参画局の男女共同参画週間のポスター(右図)を掲示した。



図6 ポスター

②-2 | 仕事と育児等との両立支援

(1) 小白川キャンパス保育所のびのび

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の2割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児が対象。
3	利用定員	30人（地域枠6名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入学共通テスト等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日(ただし、大学入学共通テスト及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。) (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 32,600円/月、1歳児 32,500円/月、 2歳児 40,500円/月、3歳以上 25,500円/月 【0歳～就学前】給食費・おやつ代 4,500円 延長保育：1時間300円 一時保育：3歳児未満 1時間400円 3歳児以上 1時間300円 【0歳～就学前】一日につき給食費 361円・おやつ代 75円(希望がある場合) 大学入学共通テスト及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する事業所内保育所で民間委託。
8	開所時期	平成26年4月1日

*無償化対象となるのは、保育の必要性のある子どもで、①3歳以上②3歳未満児で非課税世帯のこどものいずれかに該当する場合。一旦、保護者が保育料の全額を大学に支払い、その後市へ請求を行うことで支払った金額の全部又は一部が支給される「償還払い」方式により行う。

●利用状況

<入所者数> () は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和元年3月	13人(2人)	4人(1人)	17人(3人)
令和2年3月	11人(3人)	7人(2人)	18人(5人)
令和3年3月	10人(3人)	8人(3人)	18人(6人)

●教育研究への対応

保育所が大学の施設である関係から、保育所利用規程の目的に保育研究等に資する環境を整えることも含まれている。そのため、教育研究活動に関する取扱要領を制定し、日常保育の中の可能な範囲で教育研究に対応している。

(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員(以下「職員等」という)が養育する生後57日から満1歳までの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の4割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から満1歳までの乳幼児が対象。
3	利用定員	10人(地域枠4名以内)
4	保育時間	基本保育: 7時30分から18時30分まで 延長保育: 18時30分から20時30分まで 一時保育: 7時30分から20時30分までの間 大学入学共通テスト等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日(ただし、大学入学共通テスト及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。) (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育: 0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月 延長保育: 1時間 300円 一時保育: 1時間 400円 一日につき給食費 361円・おやつ代 75円(希望がある場合) 大学入学共通テスト及び学力検査等: 1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する企業主導型保育所。運営は民間委託。
8	開所時期	平成30年9月1日

*住民税非課税世帯で、保育の必要性のある子どもは無償化の対象になる。

●利用状況

<入所者数> () は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳児	1歳児	計
令和元年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)
令和2年3月	10人(4人)	0人(0人)	10人(4人)
令和3年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)

(3) 医学部保育所すくすく

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番
2	利用対象者	山形大学医学部、山形大学医学部附属病院及び大学院医学系研究科職員が養育する産後休暇明けから小学校就学の始期に達するまでの子どもを対象。ただし、入所定員に余裕がある場合、終夜保育を除き、山形大学の他学部等所属職員及び学生の子どもも対象とする。
3	利用定員	40人（0～1歳については、20人を上限とする。）
4	保育時間	基本保育：7時00分から18時30分 延長保育：6時00分7時00分及び18時30分から20時30分 終夜保育：18時30分から翌日の7時00分 一時保育：終日
5	休所日	12月29日から翌年の1月3日まで
6	保育料	基本保育：3歳未満 45,000円/月、3歳以上30,000円/月 延長保育：1時間につき 300円 終夜保育：1回につき 1,000円 一時保育：2時間につき 500円
7	運営形態	児童福祉法の認可外保育施設とし、運営は民間委託
8	開所時期	平成19年1月9日

●利用状況

<入所者数> *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和元年3月	7人	32人	39人
令和2年3月	9人	22人	31人
令和3年3月	14人	17人	31人

（4）医学部病児保育室

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番（山形大学医学部管理棟1階 正面玄関北側）
2	利用対象者	本学に所属する職員の子ども（生後6か月から小学6年生までの子どもで、急性感染症や慢性疾患に伴い、当面、症状の急変は認められないが、病気の回復に至っていないことから集団保育が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な子ども）を対象とする。
3	利用定員	3人（生後6か月から小学6年生まで）
4	利用日時	平日の7時30分から18時00分
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用料	保育料1日500円、半日（5時間未満）300円 昼食代（年齢、月齢に合わせた離乳食か幼児食等、補食（おやつ）を含む） 無償
7	開所時期	平成29年1月4日

●利用状況

期 間	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
平成30年度（4月～3月）	28人	110人	48人	127人	313人
令和元年度（4月～3月）	39人	68人	60人	100人	267人
令和2年度（4月～1月）	14人	30人	6人	30人	80人

（5）荘内銀行キッズワールドあゆみ

●概要

1	所在地	鶴岡市本町1丁目3-43 荘内銀行内
2	利用対象者	山形大学農学部役職員及び学生が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。
3	利用定員	2人（空き定員の範囲内）
4	利用日時	7時30分から19時30分（延長保育なし、土日は両親ともに仕事の場合は開所する。）
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用開始時期	平成30年4月1日

●利用状況

	0～1歳児	2歳児以上	計
令和2年3月	0人	0人	0人
令和3年3月	0人	0人	0人

(6) 託児サポーター制度（学童の一時預かり）

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月に開始した制度であり、託児サポーター（研修を修了した学生）が保育士の指導のもとで保育を行う。

平成26年4月からは小白川キャンパス保育所が開所し、生後6か月から就学前の子どもの一時預かりは保育所で行うことができるため、小白川キャンパスにおいては本制度の利用は学童に限られる。保育所が設置されていない米沢キャンパスにおいては、平成28年度からダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業の一環として、幼児を含む一時預かりを実施している。

<過去3年度分の利用者状況> ※米沢キャンパス利用分を含む

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用教職員数	4人	1人	0人
託児子ども数	6人	1人	0人
年間延べ利用回数	4回	1回	0回
年間延べ利用時間	39.9時間	13時間	0時間
実働託児サポーター数	1人	0人	0人

(7) 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度

①研究継続支援員制度

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な研究者（性別問わず）に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供する。

<過去3年度分の利用者状況>

		利用者数	支援員数	支援時間数
平成30年度	前期	18人（2人）	16人	2,393時間
	後期	21人（4人）	23人	1,995時間
令和元年度	前期	21人（5人）	23人	2,024時間
	後期	19人（9人）	21人	1,740時間
令和2年度	前期	20人（8人）	20人	1,890時間
	後期	23人（9人）	21人	2,160時間

（ ）は男性利用者内数

②学会参加時の保育支援制度

平成24年4月より女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、「学会出張時の保育支援制度」を実施した。教職員だけでなく博士後期課程学生も利用できることから、「学会参加時の保育支援制度」と名称を改めた。また、平成26年度から男性研究者についても支援対象としている。

(8) 相談制度

ワーク・ライフ・バランスの改善に向けて、平成25年度より対象を女性研究者から全教職員、大学院生(博士前期課程を除く)及びポストドクターに拡充して相談員による巡回相談を実施してきた。

相談件数は少なくなっていることから、平成30年度より男女共同参画推進室が相談窓口(LGBTも含む)になっている。

②-3 | 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

【農学部】

農学部ってどんなところ？～現役理系学生の話聞いてみよう！～

日 時：令和2年8月2日（日）13：00～13：30

会 場：農学部

参加人数：高校生17名（男子6名・女子11名）

内 容：本学部の女子学生によるZoom講演

- (1) 農学部における学生生活と研究内容について
- (2) 本学部における女子卒業生の就職状況について
(自身の就職活動について体験談を交えながら)
- (3) 本学部の女子学生と女子高校生との質疑応答



図1 セミナーの様子

【効果】

- ・東北地方の高校生だけでなく、関東地方や中部地方等、遠方の高校生が複数参加していた。
- ・現役の大学生による講演であったためか、高校生も話しやすい雰囲気のように、質疑応答が活発であった。

【反省点】

- ・宣伝方法について

本セミナーはオープンキャンパスのコンテンツとして実施したため、バーチャルオープンキャンパス特設webサイトにおいて参加募集したが、バーチャルオープンキャンパス自体が初の試みであったため、HPでの公開・申込期間が10日程度と短く、集客人数が予想より伸びなかった。来年度以降、宣伝方法について改めて検討する。

- ・Zoomについて

Zoomの仕様上、受講者側の設定で、自分自身がカメラに映さないことが可能である。今回のセミナーでは、受講者全員がモニターに映っておらず、講演者側は見えない相手に話すことになるため、受講者の反応がわからず、講演者が苦慮した場面があった。

【理学部】

(高校1年生向)・理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内

(高校2年生向)・理学部の研究室を覗いてみよう！

日 時：令和2年12月1日（火）

会 場：理学部1号館12・13講義室等

参加人数：129人（男性0人・女性129人（1年生64人、2年生65人）

内 容：

理学部での研究・教育について、将来女性研究者となる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的は以下のとおりである。

- ・理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
- ・在籍する女子学生（あるいは卒業生）、女性研究者の生の声を聞き、対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ・研究室を見学する機会を設け、将来の選択肢の1つとしてもらう。

（高校1年生向）

理学部各分野（数理科学、物理学、化学、生物学、地球環境科学）の女子学生より教育・研究の紹介を行った。発表後、質疑応答を通して理学部の女子学生・女性研究者の生の声を聞いてもらった。

高校生が抱く「理学部ではどのような教育・研究が行われているの?」「進路選択の時期や決め手は?」「研究分野について興味を持ったきっかけは?」といった一般的な疑問について分かりやすく説明。研究分野についての以外にも学生生活についての質問などが寄せられた。

（高校2年生向）

- ・数理科学分野：数理の問題をプログラミングで解決しよう
- ・物理学分野：物質中の不思議なミクロの世界
- ・化学分野：化学コースを知ろう
- ・生物学分野：からだの微細なかたちを観察する
- ・地球科学分野：本物の宝石と偽物との見分け方

という内容で、各研究室が工夫を凝らした実験・講義を行った。参加者は、興味を持った分野の研究室を訪問し、これらの実験・講義を体験した。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立された。3年目となる今年度も新規メンバーの募集を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ながらこれまで行われてきたメンバー間の交流の機会の多くが奪われることになってしまった。しかしその一方で、女子中高生理系進路選択支援事業でのメンバーの活躍は目覚ましいものがあり、参加した女子中高生への大きな刺激となったことが取り組み後のアンケートでも明らかであった。メンバーの女性大学院生にとっても、自らのキャリア形成を見つめる機会の一つになったと思われる。

【名 称】山形大学女性大学院生ネットワーク

(略称「山大JOIN」)

【対 象】山形大学女性大学院生

【登録人数】女性大学院生17名

(令和2年12月末現在)

【活動内容】

- ・女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ?～現役理系学生の話聞いてみよう!～」への参加

8月2日、JOINメンバーを含む大学院生が、高校生と保護者(計17名参加)と交流した。

- ・女子中高生理系進路選択支援事業「サイエンス・カフェ」に、4名のメンバーが協力。

10月4日に山形市遊学館で開催されたサイエンス・カフェ(※詳細については、39ページ「女子中高生理系進路選択支援事業」を参照)に参加し、取り組みにおける科学実験の補助と参加者との交流を行った。

- ・女子中高生理系進路選択支援事業(※詳細については、39ページ「女子中高生理系進路選択支援事業」を参照)に協力し、各学校での科学実習の補助と参加者との交流を行った。

9月18日 東桜学館中学校における取り組みに、2名のメンバーが参加、協力した。

10月19日 長井北中学校における取り組みに、2名のメンバーが参加、協力した。

12月3日 米沢興譲館高校における取り組みに、3名のメンバーが参加、協力した。

これらの取り組み後のアンケートでの「参加して良かったと思うこと」の自由記述欄には

「大学院生の貴重な体験談を聞いたこと」(サイエンス・カフェ参加生徒)

「女性の研究者の方々とお話ができ、大変良かったです」(同、保護者)

など、この取り組みにメンバーが果たした役割の大きさを示す声が寄せられた。

山形大学女性大学院生ネットワーク
山 大 JOIN
ジョイン
登録募集のお知らせ

女性大学院生のみならず
仲間・夢へと「つなぐ」
山形大学女性大学院生ネットワーク(通称:山大JOIN)の
メンバーとして、一緒に活動しませんか?

対象:本学に在籍する女性大学院生(文系・理系問わず)

趣旨・目的
次世代のリーダーを担う女性人材の育成を目的として、女性大学院生ネットワークを構築し、参加者の相互交流を促るとともにキャリア形成を支援する。
大学院進学を目指す女子学生の育成を目的とした裾野拡大事業を推進し、小中高生を対象とした次世代育成活動を行う。

活動内容(予定)
・男女共同参画関連事業(意識醸成セミナー、シンポジウム、パネル展示等)への参加
・女性活躍促進企業への交換留学、企業訪問、キャリア就職セミナー、進学セミナー等のキャリアアップを目的とする研修への参加
・裾野拡大事業(小中高生向け事業)、出前授業(進路学習・探究学習含む)への参加、企画および実施
・女性大学院生交流会への参加
・情報共有活動(活動報告や記事の執筆、メルマガの配信など)

※小中高生を対象とした活動および各種行事の運営活動は勤務扱いになり、「山形大学アドミニストレイティブアシスタントに関する規定」が適用されます。交流会や研修への参加、自らのスキルアップやキャリア形成を主な目的とする活動は、非勤務扱いとなります。詳細は相談ください。

登録方法
必要事項を記載のうえ、EmailまたはQRコードより
申込みください。
<必要事項>氏名、所属、学年、Eメールアドレス

山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター井上
TEL023-628-4937 Email: y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 チラシ

(3) 女子中高生理系進路選択支援事業

令和2年度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に、山形大学が申請した企画「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」が採択された（期間：令和2年6月～令和3年度、補助金上限：毎年300万）。

日本では理工系を志望し進学する女子学生、さらにはその知識や技術を活かし活躍する女性研究者が少ないことが課題とされてきた。山形大学はこれまでも山大サイエンスカーによる理科実験等に取組んできたが、これまでの取組の成果を生かしながら、この事業において山形県内の関係機関と連携し、県内の女子中高生の理工系進路選択のさらなる支援を推し進めていく。実施機関連務担当として、男女共同参画推進室が参加している。

1 この企画における目的と取り組み

理工系進路選択に関心の薄い中学生・高校生を対象に、理工系の科目や仕事への関心を高めるため、山形県全域で以下の4点に取り組む。

- (1) 県内の中学校を訪問し、女性研究者・女性大学院生が実験を行う出前講座を提供し、理工系の女性が活躍している職場を紹介する。
- (2) 県内の高校を訪問し、女性大学院生が探究活動の指導や女性研究者が進路講話を行う出前講座を提供し、理工系の女性が研究している企業を紹介する。
- (3) 中高生と保護者を対象に、女性の研究者・大学院生との交流や実験に参加できるサイエンス・カフェを県男女共同参画センターと協力して開催する。
- (4) 県内全ての中学1年生（1万人）に本プロジェクトのロールモデルの啓蒙パンフレットを作成し、配布する。作成には女子大学院生が参加し、インタビューを行い、記事を制作する。女子大学院生の視点で中高生に魅力的な内容のものにする。積極的にSNSを使って発信する。

2 令和2年度の取り組み内容（令和2年12月現在）

	月 日	実施場所	取り組み内容と参加者
1	8月3日	山形県立東桜学館 高等学校	「課題探究指導」 高校2年生15名、教員5名 講師：栗山恭直（理学部 教授）、女性大学院生4名
2	9月14日	山形県立東桜学館 中学校	「出前授業」 中学2年生33名、教員5名 講師：河合寿子（理学部 助教）、女性大学院生2名
3	9月16日	山形県立酒田東 高等学校	「課題探究指導」 高校2年生15名、教員5名。 講師：栗山恭直（理学部 教授）、女性大学院生5名
4	10月4日	山形市 遊学館	「女子中高生のためのサイエンス・カフェ」科学実験、女性研究者との交流。女子生徒8名、保護者、一般（YouTube参加者含む）10名、講師：河合寿子（理学部 助教）、女性大学院生3名
5	10月19日	長井市立長井北 中学校	「出前授業」、女性研究者・大学院生との交流会、 中学2年生75名、教員4名 講師：宮瑾（理工学研究科 准教授）、女性大学院生2名

6	12月3日	山形県立米沢興譲館 高等学校	「出前授業」、及び「女性大学院生との交流」 高校1年生25名、講師：皆川真規（理工学研究科 助教）、 女性大学院生3名
7	12月14日	山形大学附属 中学校	「出前授業」、及び「座談会」 中学1年生33名、講師：常松佳恵（理学部 准教授）

3 受講した生徒の感想から

「身近なところに科学の力が使われているということを知ることが出来たので、とても楽しかった。」

「女性の先輩方が活躍されている姿を拝見して、自分の将来につながるヒントが得られる時間でした。」

「とても楽しく参加させていただき、ありがとうございました。」

「理系に進んだ場合のビジョンがはっきり見えてきた気がします。」

「初めて専門的な用語や授業を受けられて学べた。」

4 取り組み前後のアンケート調査

各取り組みの前後に、参加生徒、教員、保護者にアンケートを依頼し、理系進路へのきっかけや障壁などを多面的に解析する試みを行っている（事後アンケートに関しては、JSTアンケートを使用）。

5 ヤマガタ夢☆未来Girlsプロジェクトのホームページ

ホームページを開設し、アドレスは以下のとおり。

<https://yumemirai-girlsproject.aiyweb.com/>



図1 サイエンス・カフェ



図2 長井北中学校の交流会



図3 米沢興譲館高校の交流会



図4 事業ホームページ

(4) 令和2年度基盤教育・ジェンダー関連授業

令和2年度基盤共通教育「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」(山形から考える)

1 テーマ

- (1) 自らのキャリア・ビジョンを描くため、多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を保てる働き方についての考えを深める。
- (2) 21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 講師一覧(敬称略)

授業時間割 後期 水曜日7校時(14:40~16:10)

	月日	講師名	プロフィール等
1	10月21日	佐藤和佳子 学術研究院教授 (医学系研究科)	高齢者看護学を担当。特に、介護を要する高齢者の自立と自己決定支援をテーマに、フィールドワークや看護活動に取り組んできた。現在は、仕事と介護の両立など、家族の立場からも体験中。
2	11月4日	荒木 志伸 学術研究院准教授 (学士課程基盤教育機構)	専門は日本考古学。東北芸術工科大学、明治大学などを経て、2011年より現職。山形に来たことを契機に、山寺や出羽三山、松島瑞巖寺で調査研究を行う。2016年山形大学優秀教育者賞受賞。
3	11月11日	濱 定史 学術研究院助教 (理工学研究科)	専門は木造建築構法、改修再生設計。伝統的な木造建築について、研究および設計活動を行う。山形と東京の2拠点居住。妻と娘は東京で暮らす。
4	11月18日	網干 貴子 学術研究院准教授 (農学部)	専門は生物有機化学、化学生態学。植物と昆虫の相互作用に使われる化学物質の研究を行っている。大学卒業後、任期付き研究員を経て、大学教員に至る。
5	11月25日	小倉 泰憲 学術研究院教授 (理学部)	学生や産業現場で働く人を対象とし、キャリア教育とキャリアコンサルティングを実践。大学で音響工学を学び、企業でエンジニアとして働いた。その後、社会人大学院で心理学を学び、山形大学教授に転職。
6	12月2日	小野 卓也 曹洞宗洞松寺住職	米沢女子短期大学非常勤講師、人権擁護委員、山形県家庭教育アドバイザー、妻が研究職で茨城県に平日単身赴任して10年、土日・平日で分担して子育て中。
7	12月16日	富澤 直人 学術研究院教授 (人文社会科学部)	専門は英語統語論。言語学の中の生成文法という分野で、人間言語のコアを成す文法原理の解明に主に英語と日本語からアプローチしている。
8	12月23日	中西 正樹 学術研究院教授 (地域教育文化学部)	専門は情報科学。大学院博士後期課程を2年で中退 → 大学助手として就職 → 仕事をしながら学位を取得 → 2009年に山形大学に赴任。家族は妻と子ども一人。

3 受講した学生の感想

- ・介護は高校生の時から両親が祖父母の介護をしていたのである程度想像はできたが、詳しい実態を知ることができた。その中で介護はつらいだけのイメージだったが、介護の中でも新たな楽しみを見つけられることや、介護は周りの人たちのかわり方が大切であることがわかった。

- 今日の講義では失敗談やためになる話を沢山聞くことができ、とても勇気づけられた。特に、私はやりたい事はあるけれど、それが自分に向いているのか、またその仕事に就けるのかとても心配だった。しかし、先生の話から、まだ何も行動に移していないのだから、まずは大学生活の中で何でもやってみようと思った。「経験してないうちは失敗ですらない」という言葉を胸に果敢に挑戦していきたい。
- 夫婦どちらかではなく、それぞれのキャリアを歩むということは、男女共同参画社会を考えるうえで重要な考えだ。そして、その中で家族のつながりを保とうと努力することは簡単なことではないが、時間の使い方や家事の分担など、仕事と家庭のバランスを保つための夫婦の協力の必要性を学んだ。
- 先生が人とのコミュニケーションを大切にすべきだとおっしゃっていたのが、大変印象的だった。現在、このコロナ禍の状況下で、人と人とのつながりを強く感じられるようになった。先生の経験談から人とのコミュニケーションを大切にすることで、自身のキャリアだけでなく、人生の道しるべとなるヒントを得ることが出来ると感じた。
- 本日の講義は私にとって非常にためになる内容で、同時に私に勇気を与えてくれる内容でもあった。特に、先生の『後悔は自分で決めきれない時に残るもの』という言葉に大いに納得した。また、何かを決断する時は外的キャリアだけでなく、内的キャリアにも目を向ける必要があると理解する事が出来た。
- とても貴重な体験をお持ちの方の話を知ることが出来た気がした。先生は、僧侶さんだけではなく、主夫、博士、ボードゲームジャーナリスト、男女共同参画推進委員などを両立していてとてもすごいと思った。「過ぎ去った過去よりも今が大事」、「キリがない先々の心配をしない」という先生のモットーがとても印象に残ったので、自分の人生にも活かしたい。
- 今回の講義を聞き、幼い子供を持つ親にとって、子供の安全が確保されることによって安心できるということが分かり、そのために力を尽くすことの大切さを感じた。先生は安全な学童保育を、ボランティアで行っていて、強い責任感を持っていることが素晴らしいと思った。私もボランティアに興味を持っているが、なかなかあと一歩を踏み出せていないので、勇気を出してやってみたい。
- 先生の講義を聞いて印象に残ったことは、良いと思っていたことが後に悪いことになったり、悪いと思っていたことが後に良いことになったりと、人生は長い目で見たら辻褄が合うようになっているとおっしゃっていたことだ。自分は今まで無駄なことはすべきでない、人生は自分の求めるための最短ルートをいくべきだという考えだったが、回り道を進むことの大切さに気付いた。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、『『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』探究ノート』を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。

②-4 | アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①ダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回 日時：令和2年8月26日(水)(議長：井上榮子准教授) ・男女共同参画推進状況アンケート調査 8月～9月 ・第2回 日時：令和2年11月19日(木) 持ち回り会議(議長：井上榮子准教授) ②「シンポジウム」の共催 日時：令和2年11月10日(火)
山形大学COI	①JST拠点面談(米沢)で報告(井上榮子准教授) 日時：令和2年7月29日(水) ②山形大学COI共催(小野川温泉)(井上榮子准教授) 第2回地域連携プラットフォーム～小野川のまちづくりPart2～の開催 日時：令和2年7月30日(木) ③山形大学COI共催 工学部11号館未来ホール(井上榮子准教授) 3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告」 SDGs×COI若手・女性研究者交流会 日時：令和2年11月10日(火) ④山形大学COI共催(小野川温泉)(井上榮子准教授) 睡眠実証研究の現地説明会 日時：令和2年12月22日(火) ⑤JST拠点面談に参加(井上榮子准教授) 日時：令和3年1月14日(木)(オンライン)
山形県男女共同参画センター チェリア	①チェリアフェスティバル実行委員会 日時：令和2年4月25日(土)(井上榮子准教授) ②企画運営委員会 日時：令和3年2月20日(土)(井上榮子准教授) *チェリアフェスティバル山形2020 中止
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①ファーラ大学開校式で講演(井上榮子准教授) 日時：令和2年10月13日(火) ②山形市男女共同参画審議会(会長：井上榮子准教授) 日時：令和2年11月12日(木) ③山形市男女共同参画審議会(会長：井上榮子准教授) 日時：令和3年2月16日(火)(書面会議) *男女共同参画に関する作品募集 中止
天童市男女共同参画 推進計画策定委員会	①天童市男女共同参画推進計画策定委員会 研修会・講演(委員：井上榮子准教授) 日時：令和2年7月28日(火) ②天童市男女共同参画推進計画策定委員会(井上榮子准教授) 日時：令和2年8月24日(月) ③天童市男女共同参画推進計画策定委員会(井上榮子准教授) 日時：令和2年12月16日(水)(オンライン)
長井市 地域づくり推進課	①長井市男女共同参画推進審議会 (会長：井上榮子准教授) 日時：令和2年12月18日(金)(書面会議)

機 関 等	連 携 内 容
山形県 男女共同参画課	やまがた女性活躍応援連絡協議会 (委員：井上榮子准教授) 日時：令和3年2月末（書面会議）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織	①全国ネットワーク組織・幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年7月3日（金）（オンライン） ②全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和2年11月12日（木）（オンライン） ③認定証交付式・シンポジウム（井上榮子准教授） 日時：令和2年12月14日（月）（オンライン） ④全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和3年3月1日（月）（オンライン）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年10月28日（水）（オンライン） ②東北ブロック勉強会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年11月7日（土）（オンライン） ③東北ブロック会議幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和3年1月15日（金）（オンライン）
女子中高生理系進路 選択支援事業	①サイエンス・カフェ（井上榮子准教授、前田美香研究支援者） 遊学館 日時：令和2年10月4日（日） ②中学校出前講座（井上榮子准教授） 長井市立長井北中学校 日時：令和2年10月19日（月） ③JST中間評価面談（井上榮子准教授） 日時：令和2年11月10日（火）（オンライン） ④高校出前講座（井上榮子准教授） 山形県立米沢興譲館高校 日時：令和2年12月3日（木） ⑤JST全体報告会（井上榮子准教授） 日時：令和3年2月6日（土）（オンライン）

②-5 | 広報活動等

【ニュースレター】

第27号 (2020年7月発行)

第28号 (2021年3月発行)

【ホームページ】

ホームページの更新を平均月1回行い、学内外の情報に関わらず、利用者に有益と思われる情報を提供し、さらにセミナー等への参加や制度利用の促進に努めた。第2次山形大学男女共同参画基本計画を掲載し、「無意識のバイアス」に関するセルフチェックのページを新設した。

また、第2次基本計画の施行に伴い、ホームページの構成、記載内容、リンクなどを見直し、令和3年1月19日にホームページのリニューアルを行った。

【パネル展での広報】

米沢市男女共同参画パネル展

米沢市からの要請を受けて、本学作成のLGBTの紹介パネルを米沢市の男女参画パネル展にて展示を行った。本学のLGBTの取組みを広く紹介する機会となった。

日 時：令和2年11月9日(月)～20日(金)

場 所：ナセBAオープンギャラリー

【新聞等による報道】

女子中高生理系進路選択支援事業について、次の記事が紹介された。

- ・令和2年6月28日 山形新聞
「理工系女子 増加に力 山形大のプログラム採択」
- ・令和2年8月13日 読売新聞
「理・工学部も女子いるよ 高校生に助言、偏見解く」

